

創刊の辞

京都産業大学は 2007 年に、通信教育で経済学修士を取得できる全国初の大学院として経済学研究科（通信教育課程）を開設しました。

その目的は、社会人を対象に、通信教育を通して各自が関心を持つ経済政策領域を学ぶことによって、実社会で直面する経済的課題について常に理論と実証の両面から分析できる、高度な判断力と実践力を備えた人材の養成にあります。

現代日本の経済社会は経済のグローバル化、少子高齢化、高度情報化、経済格差の拡大等、急速な変化と多様性が進展しつつあります。その結果、社会人にもそれぞれの職場において、これまで以上に客観的な洞察力と問題解決能力が求められるようになってきました。他方、社会人の側からも、働きながらさらに高度な教育・研究の場で自己研鑽する場として、通信制大学院開設の要望が大きくなっていました。専門的職業人をめぐるこうした需給両面の要請に対応して、本課程は設立されました。

したがって、本課程が対象とする人材は社会の第一線で働きながら課題をかかえて学びかつ成長・発展を目指す社会人であり、たまたま現在就業していない方であっても、これまでの社会での経験を生かして問題意識を深めてスキルアップを図り、生涯学習の一環として生きがいを見出し、学習効果を再び社会に還元しようとする人材です。

このような人材養成は現実の経済問題と大学での研究を関連付ける産学連携のひとつの形であるとともに、有為の人材を社会に還元することにつながり、本学の「建学の精神」を具現化する取り組みでもあります。

開設以来、この通信制大学院は順調な発展を遂げ、6年後の 2012 年度末現在、すでに 51 名の修了生を社会に還元するに至りました。

この発展過程で、修了生の中からさらなる研究の継続を望む声が大きくなるとともに、教員の間にも学術誌発刊の気運が高まってまいりました。そしてこのたび、経済学に関する研究の振興と、その成果の普及を図ることを目的に、「京都産業大学通信制大学院経済学研究会」を発足させ、会誌として電子ジャーナル『京都産業大学経済学レビュー』を発行することになりました。

この会誌を通して、本学の通信・通学両経済学研究科に関係する教員、修了生、大学院生などの研究成果を発信していきたいと考えています。『京都産業大学経済学レビュー』が社会の発展に貢献できるよう努めてまいります。

京都産業大学通信制大学院経済学研究会
会長 後藤富士男